

# The Road 町田人

定年をきっかけに  
地域での活動を始めた二人。  
地域への熱い想いを語る。

町田第二地区協議会 代表

高ヶ坂・成瀬地区協議会 事務局

中一登氏 × 大倉博志氏

コロナ禍に翻弄された2020年。自粛により社会生活が制限され、多くの地域活動も休止せざるを得なくなった。その中でも、できる活動を模索し続けたお二人に、地域に対する想いを聞いた。

地域の活動を始めたきっかけは？

大倉：定年退職を機に、それまでの仕事とはきっぱり別かれて地域と関わっていこうと決めていました。退職2年前か

ら、定年後の生活をイメージして準備する機会を会社から与えられていたこともあり、自分の居場所作りのためにも地域に出て行こうと思い、住んでいた場所の自治会役員になりました。

中：私も定年退職をきっかけに、町内会の活動に参加するようになりました。自分たちの先輩方が昔からずっと地域を守ってくれているのを見ていて、今度は自分が恩返しをする番だと思い、もう10年近く続けています。

これまでどんな活動を？

中：たまたま孫の通学に付き添った時に、通学路の交通量の多さに危険を感じ、町内会での見守り活動を始めました。地域の安全・安心のため、高齢者の見守り、子どもの見守り、防災・防犯の3本柱に力を入れて活動しています。学校、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成地区委員会、警察などと連携して、日常の中でさりげない見守りを行っています。

大倉：私はもともと医療と介護の連携を研究していたこともあり、それらの分野に関心があります。そこで、認知症友の会の会合に顔を出したりして、少しずつ活動の幅を広げていきました。ちょうどそのころ、地域の拠点であるコミュニティセンターを建て替えるという話があり、ぜひそこに多世代交流の場を作りたいと思いました。具体的にはセンターのグラウンドの使い方を見直したり、どういう部屋をどう配置したらいいか、皆でよく議論したりしましたね。